

# 第3回益城町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 摘録

日時：令和7年1月17日（金）午前10時00分～

場所：益城町役場 会議室2-4、5、6

## 1 開 会

## 2 議 事

・第3期益城町まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について

- 事務局より、参考資料1～3、資料1に沿って説明させていただきました。
  - 「第3期益城町まち・ひと・しごと創生総合戦略素案」について、下記のようなご意見をいただきました。（下記、要旨）
- 委員）リクリッドというシステムで意見等を聴取することのだが、上手く活用していくために、すでに活用されている自治体があるのであれば、成功例、失敗例を参考にして進めてもらいたい。また、フェイク投稿への対策等をしっかり行っていたきたい。
- ✓ 事務局）リクリッドを利用するには登録の必要があり、ひと手間かかる。まちづくりに関心を持っている方に参加していただき、その上で意見を言うってもらう場として適していると思っている。行政と町民の皆さんではなく、町民の皆さん同士が自由に議論できる場となり、しっかりと議論がなされていくことを望んでいる。その際、町でアドバイザーとして委託しているコンサルタントに議論の軌道修正や適切な情報提供をお願いしている。
  - ✓ 委員）これはアカウントを作ると思うが、町民のみなのか町外の方も可能なのか。
  - ✓ 事務局）町外の方も可能である。実名ではなく、ニックネームでも登録可能であり、匿名での投稿も可能である。町民でない方でも益城町のことを思ってくれている方には議論に参加いただきたいと考えている。
  - ✓ 委員）上手く機能すれば良いシステムだと思うが、周知の方法は工夫したほうがよい。町の情報発信は、インスタの利用者も4,000人程度、ホームページの興味の持って行き方も薄い。确实なのは回覧板であるが、見ている人と、見ていない人の差が生じる。情報を発信するための基本的な見直しがないと、素晴らしいシステムが出来上がって準備万端に整えたとしても、利用者が少ないということが問題になってくる。
  - ✓ 会長）様々なツールを使う時に、使う側の意図と目的をはっきりする必要がある。例えば、議論の質を深めていくことが目的であれば、どれだけの数が登録しているかどうかは、基本的には二の次であり、広がりも少なくても真剣に考えている人達の意見をもらうためのやり方があると思う。ご指摘があ

ったように、情報はしっかりとたくさんの人にお伝えしつつ、しかしそれだけでは手を挙げる人が出てこない可能性があるのも、少しでも関わった人が、例えば審議会のメンバーが、自らも知り合いにも声をかけて、参加してもらい意見を出してもらおう。お話を聞いていて、いろいろと組み合わせていかないと上手くいかないと思う。とても魅力的なシステムなので、有効に活用していくことをみんなで考えていただきたい。また、管理者とファシリテーターの役割を担っていただくファクターをしっかりと保証しながら運営していくことが肝である。最近では、言いたい放題言って、鬱憤ばらしに使う人もいると思うので配慮してもらいたい。そして、出来れば、単に行政や計画文書に対する意見だけでなく、「私ならこういうことができます」、「これやってみませんか」というような意見が出てくると理想的だとも思った。

- 委員) 重要施策の書き方、まとめ方が良くなっている。施策2と3の括り方について違和感があったが、事前の意見を反映され、「こども・子育て施策をサポートする施策」という表現から、「こども・子育て施策と相乗効果を図る施策」に変更し、分かりやすくなった。また、施策3について、第3章に持つていくのは妥当だと思う。施策の内容はもちろん大事だが、出来上がった総合戦略の見せ方も非常に大事だと思う。非常に良くなったが、重要施策の括り方について、書き方、文言も含めて、今後さらに洗練されると良い。
  - ✓ 会長) わかりやすく、とっつきやすい表現ということか。何か具体的に「ここがわかりにくい」ということはあるか。
  - ✓ 委員) 「相乗効果を図る施策」という表現への修正は良いと思う。ただ、ターゲットが「こども・子育て世代」なのでこの括り方になるのだと思うが、施策2は、必ずしも「こども・子育て」と密接に関係するものばかりではないので、違う括り方でも良いのではないかとも思う。また、第2期戦略とは書き方が異なるのも、それで良いのかと考えるところであるが、こうすればよいというものは持ち合わせていない。
  - ✓ 会長) これが総合計画であれば、1つひとつ独立させて柱立てすればよいが、ターゲットをこどもに絞ったところでの表現だと思う。
- 委員) 子育て世代・こどもが中心ということであり、表現的には良い。しかし、5つある益城町立の保育所のうち、第4保育所が民営化される。そういったことが、「町としてこういう方向性だから、こうする」という関連性が見えてこない。計画の中の言葉の表現と、実際のつながりが見えてこない部分がある。第4保育所の民営化は、子育て世代が住みたい益城につながるのかどうかと考えてしまう。こども・子育て施策の中で具体的に取り組んでいることはあるのか。
  - ✓ 会長) 今のご指摘はとても大事で、ピンとこないということなのだろうと思う。例えば、総合計画や総合戦略で良いことは書いてあるが、実際の動きを見ていると、リンクできない、実感できないということだと思う。総合計画や総合戦略という基本文章は、現実には施策を判断する際の物差しになる。現状で

具体的に出てきた施策を評価する際に、「これとどのような関係があるのか」や「これと矛盾するのではないか」というような批判ができる道具を提供していると思う。確かに、町がやっているすべての施策について、「計画や戦略のこの部分がこうだから、これをやっている」というようには結びつかない所がある。その部分について、「なぜか」をもう一度検討し直す道具だと捉えている。ご指摘のような質問が出るような機会を提供するのが、このような基本文章だと思う。

- 委員) 先日、保育園や幼稚園のお母さんと話す機会があった。総合戦略の会議に出ているという話をした時に、彼女たちは第2幼稚園が無くなったのが凄く疑問だったようだ。「幼稚園が無くなり、自分たちは大変。幼稚園などが充実すると益城町に来たい人はたくさんいるのではないか。」という話を聞いた。私も返答に困った。自治体の運営、財政等もあると思うが、お母さん方が納得できないという受け止め方をしていたなら、町に対する印象、「子育て・こどもがまんなか」というキャッチコピーの説得力が欠けると思う。
- ✓ 事務局) 第2幼稚園は、益城幼稚園に統合されている。第4保育所については、公私連携の取組が始まったところである。2つの事業については、決してサービスを低下させる意思はなく、町としては、対象となる方に対し十分に説明してきたというスタンスである。しかし、ご指摘いただいたとおり、こちらからの説明が足りないということはあると思っている。事務局としても、計画策定の際にアンケートやワークショップを実施し意見はたくさんいただく。その中でも、「この間の意見はどうなったの」や「さんざん、ワークショップに参加したけど、どうなったの」という声をいただくことがある。町の考えを皆さんにお伝えできていないのは課題として感じている。
- ✓ 会長) 「意見を出してくれ」と言ったからには、出てきた意見については責任を持たないといけない。意見を出した方がだんだん冷めてくるのでよろしくお願ひしたい。
- 委員) 意見聴取して様々な意見が出た場合、最終案にはどのように反映させるのか。この審議会で、例えば、「こどもの人数に合わせた小中学校の整備」について、「具体的にこういうふうにする」というところまで見ていくのか。どのように最終原案を作られるのか。
- ✓ 事務局) まず、パブリックコメントは、今回益城町は2040年に38,000人という人口目標を掲げているので、それを前提にして作っているということで、概要と素案を公開する。その情報で意見をいただき、いただいた意見は対応方針を庁内会議で議論し、「ここはこのように変えよう」や「ご意見としていただくが、町としては変更せずにこのままにする」という判断をさせていただく。その内容を最後の審議会で皆さんにお諮りする。細かい施策については、素案策定以降に実施計画を策定する。私たちがやるべき施策は、実施計画に反映させたいと思っている。

- ✓ 委員) いろいろな意見が出てくると思う。それと、施策とをリンクさせるのはまだ先の話で、まず意見を取りまとめるということになるのか。
- ✓ 事務局) パブリックコメントでいただいたご意見を取りまとめて、施策の方向性が皆さんの思いに沿っているかも確認したい。文章としては、大きな方向転換はせず今書いているようなところで留めることになると思うが、いただいたご意見の内容が取り込めていないならば、取り込めるようにしていく。
- 委員) 住民の方の意見は、昔であれば、各地区の区長を通じて要望事項として挙げる。その地区に議員がいれば、議員にお願いして議会等で意見を言う。パブリックコメントとなると、直通である。各区長、議員はどうなるのか。住民と行政との中間で判断してまとめていくことが抜けてよいのか。
  - ✓ 事務局) 意見聴取は、審議会や、アンケート、ワークショップ等の場を設けている。パブリックコメントは、町全体に対して期間を設けて直接意見をいただく場になっている。もちろん、区長や議員に地区のご意見を挙げていただくということは日常的にも行っている。パブリックコメントという制度として直接ご意見をいただく場を準備しているものである。
  - ✓ 委員) 議員等にフィードバックすることはしないということか。例えば、「あなたの地区からこういう意見があった」と伝えるようなことはないということか。
  - ✓ 事務局) パブリックコメントは、匿名でご意見と対応策を公開させていただく。
  - ✓ 会長) 色々なルートで意見を聴取するということで、従来型も大事だが、パブリックコメントは制度上対応しないといけないものである。それを念頭に置いたスケジュールである。個別の要望と戦略との関係で言うと、戦略は器を用意しておいて、個別具体的な要望を実現していく施策は実施計画である。いろいろな意見が出てきた時に、これまでの私の経験を言うと、「本文を修正する」という対応と、「これから実施計画を立てる時の参考として反映させていく」という対応の仕方になると思う。
- 委員) 概要版右上の「こども・子育て施策の展開」が一番大事な施策だと思う。梓の中を見た時に、子育て世代として魅力的に感じるかと思うと、当たり前の施策だと感じてしまう。特色があるかと言われると、行政として普通に頑張るものかなと感じた。結婚、出産、子育ての話が入ってくるのか思ったが、子育ての話しか見当たらない印象がある。出産の話題について、私は困ることがものすごくあった。町として「こんな手厚いサポートがある」ということを知りたい。そこが有るか無いかで町を選ぶ人はいると思う。具体的には、産後ケア事業の充実に関しては、ママ友と話をした時に「自分の町には産後ケア宿泊型が何日ある」、「益城は何日で辛かった」というような話になった。産後ケア事業については特徴を出せるのであれば記載してほしい。また、これまでの議論を思い出した時に、「②町内の公共施設におけるこども・子育て世代向け取組の推進」というところで、

役場の窓口対応の話があったので、それを入れてはどうか。「結婚の時のウェルカム感を出す」や、「こどもが生まれた際にはプレゼントがある」など。こどもが生まれた際に「おめでとう BOX」をくれる自治体もあるが、益城町は特には無かった。「生まれておめでとう」や、「こっちに来てくれてありがとう」というような取組を入れられると変わってくると思う。窓口で対応されている方は良い人ばかりだが、特別感はない。そこに何か取組が入ると違ってくる。

- ✓ 会長) 出産の項目が弱いというのは、ご指摘を受けてそのようにも見えるが如何か。
- ✓ 事務局) 産後ケア事業は実施中である。素案の中では、「保健福祉センターはぴねす」で行っているので、取組として記載はしている。他の町と比較して足りていないサービスはあるが、現状として行政からの発信力の弱さを感じているので、タウンプロモーション分野にも書いているが町民の方々に分かりやすく伝える努力が必要と考えている。今回の素案は内容の粒感が大きく、具体施策までは出していない。会長のご発言のとおり実施計画で拾っていく部分になってくる。確かに、委員がご指摘されたように、打ち出した方が伝わる部分がある。素案の10頁には、町内の全公共施設でこども・子育て世代に向けて出来ることを記載している。各施設で、職員一人ひとりが、こども・子育て世代に対してどんなことができるかを考えることで施策をより充実させていく。それによって、子育て世代が満足できる町にしていきたい。この素案を職員にも浸透させ、新しい事業をつくっていく、充実させていくという想いでやっていければと思っている。
- 会長) 表現の仕方、(1)の②で確かに妊娠・出産は出てくるが、ここでの文脈は「町が持っている公共施設で、フル稼働で頑張りますよ」ということをアピールしている印象を持つ。そうではなく、例えば「町内の全公共施設における」としてしまっ、「こども・子育て世代向けの取組の推進」ということを看板に出して、中身は「全ての公共施設でこういう取組をしている」とするという伝え方もあると思う。行政としては、全施設頑張っていることを見せたいと思うが、受け取る側としては、むしろ中身が分かる表現があった方が良い。その点も含めて、今のご指摘を検討していただきたい。
- 委員) 総合戦略の概要をみると、町としての戦略の在り方、構造はかなりしっかりできていて、説明できないことは少なくなっているという印象を持っている。興味を持ってもらいつつ、地域の既存の資源に向けてもどうしたらよいか語られていると受け止めた。しかし、この後に何が来るのかがわからない。これを掲げた後に、例えば、役場の中の働き方や事業の作り方がどのように変わるかなどが見えると、皆さん分かりやすいと思う。地域の自治を運営している人がこれを見て活用するイメージを作り手が持っているか。実際に、計画を動かすあり方が少し見えにくい。実施計画のイメージ、この戦略を遂行するイメージがわからない。民間の方が見た場合に、これに沿って仕事をした場合にインセンティブがあるの

か、役場が協力してくれるのか、そういう位置づけのものなのか。あるいは、住民の方の日頃の生活や活動の中でどう生きてくるのか。例えば、小中学校を整備してほしいという声が大きくなった時に、施策の優先順位が上がって、すぐに遂行するものになるという仕組みなのか。その点が見えにくいと感じた。

- ✓ 会長) とても大事な指摘である。文章ができたとして、戦略の中に入れるかどうかは判断できないが、要するに基本文章ができて、自分の生活にたどり着くまでの連鎖、関連を実感できるような説明がどこかにないと、意見が出てきて、「これは実施計画でフォローします」で留まるのではなく、実施計画で考慮されたら実現する、しないという説明がいると思う。ただし、それを戦略の文章の中に入れるかどうかは別の問題である。
- ✓ 委員) 例えば、僕達がロコミ戦略としてワークショップの場を作り、意見を集めて、チームを作ったとした場合に、総合戦略に沿っていれば町は協力してくれるか。町はそういう動きを期待しているのか。あるいは、意見が集まって活動した時に何か良い事があるのかどうか。
- ✓ 会長) 良い事とはどういうことか。
- ✓ 委員) 例えば補助金のインセンティブなど、こういうことをすると活動しやすくなるということである。あるいは、委員がおっしゃった、産後ケアの充実などでコメントが多く集まると、施策の優先順位が上がっていくなど。分かりやすい一事例があると良いと思う。
- ✓ 会長) 今で言うとパブコメの話か。
- ✓ 委員) 例えば、パブコメで意見が集まった時の話である。
- ✓ 委員) たくさん集まった意見に共感するかを投票制にしてはどうか。これも1つのアクションだと思う。住民が一番やって欲しかった項目を実現していく流れが紹介できる。
- ✓ 会長) それはある意味、パブリックコメント制度が持っている弱点であると思っている。一般的に意見を出してくださいというのがパブリックコメントである。審議会があり、町としての検討プロセスがあるので、町として町民の方に「このポイントを聞きたい」ということを、選択肢を示して問いかけることで合意形成をしていく。単に「パブリックコメントをしました」ではなく、次につながるような工夫を考えていく段階だと思う。そういうことを意識しつつ進めていく必要がある。
- 委員) まだまだ粒度が粗くこれから楽しみであるが、こういう方向で進んでいって良いと思っている。しかし、気になっているのは、参考資料2-2の最終頁の基準値と目標値のところで、目標値が低すぎないか。妊婦さんの満足度は令和11年度で40%である。二人に一人も満足していないところを目標にするのか。満足度であれば、私なら8割以上の満足度を得たい。これら目標値の根拠を知りたい。令和6年度の趨勢で見ているならば戦略にならないと思う。
  - ✓ 事務局) 目標値は、正直申し上げて、事務局で一旦当て込んでみたものであ

る。基準値が50%以下のものはまず10%引き上げる、50%以上のものは5%引き上げるとしているものである。まだ庁内で協議できていないところなので、「低い」とのご意見を受け止めてもう一度検討したい。

- ✓ 会長) 是非、検討をお願いしたい。行政側としては、できそうな数値を入れたい。せっかくの戦略の文章なので、あるべき将来の姿を掲げている以上は、それが実現できるかどうかという観点よりも、「ここまでのこう」という数字が欲しい。その観点で今一度見直してもらいたい。
- ✓ 委員) 妊婦さんの満足度は低い。なぜ低いのが大事だと思う。低さの理由を分析して、それを反映させることが求められていると思う。
- ✓ 会長) 本来であれば、そこまでいろいろな議論を積み重ねて、この戦略を作り上げていくのが理想だと思うが、そのためには後1年はかかるということになるので、今の意見を踏まえて再検討していただきたい。
- 委員) DXは凄く大事ということが戦略の前提になると思っているがDXがあまり触れられていない印象である。産後ケア事業の申請を、こどもが産まれて1週間くらいで行いたかったが、「窓口に来てください。」と言われた。書類をメールで提出できれば良かったが、窓口に行かないといけないのが凄く困った。急ぎたかったけれども、「ポストに投函してください」と言われて、でも家の近くにはポストが無いという状況で、子育て世代の窓口業務をDX化して欲しい。
  - ✓ 会長) DXという切り口で戦略案みると、先ほどの合意形成の部分はわかったが、その他はどこが該当するのか。
  - ✓ 事務局) 施策3に、「職員一人ひとりの行政業務DXに対する意識醸成と、積極的な業務推進」を掲げている。元々、行政改革大綱において「窓口のオンライン申請」や「押印の廃止」、「デジタル手続きを可能にする」という計画が進行中である。ただ、その進捗は部署によってまちまちであり、まずは、それぞれが何を効率化できるかをしっかりと考えていく意識の醸成とその取組の推進ということを掲げている。ただし、制度によっては、どうしても対面でないとできないなど、できるものとできないものがあり、それらの性質を踏まえて、できるものを取り組んでいくという方針である。
- 会長) これもある意味表現の仕方だと思うが、行政の効率性を上げることが、町民、住民から見た利便性の向上につながるという説明だと伝わっていきやすいと思う。町民側の目線で表現し直す工夫ができるのではないか。
- 会長) 他に如何か。パブリックコメントが次の手続きとなるが、その間に出てくる意見や、パブリックコメントの意見の対応について、改めて事務局からご示唆いただきたい。
  - ✓ 事務局) 本日の意見を整理して、来週の庁内の推進本部会議にて合意形成を図り、パブリックコメントに載せる素案を決めたい。しかし、1月末からパブリックコメントを開始したいと思っているので、審議会の委員の皆さんに

は、パブリックコメントに提案する案をお諮りする場がないため、代表して会長にパブリックコメント案をご確認いただいてから開始したいと思っている。

- ✓ 会長) パブリックコメント案ができた段階で情報としては委員の皆さんに流してもらえるのか。
- ✓ 事務局) 皆様にも共有させていただく。
- ✓ 会長) そこで委員の皆さんに見ていただいて気づかれたことがあれば、事務局に問い合わせや、意見を伝えることは可能か。
- ✓ 事務局) 可能である。
- ✓ 会長) その上で、最後にパブリックコメント案について最終判断をするという意味での一任と理解して良いか。限られた時間ではあるが、委員としての情報も共有しながら、皆さんから仮に出てきた意見も踏まえながら、私が判断してパブリックコメント案を完成させるという理解で進めたい。

### 3 事務連絡等

- 事務局より以下ご連絡させていただきました。
  - ・パブリックコメント案を委員に対しメール等で送付させていただく。
  - ・次回審議会は令和7年3月上旬を予定。

### 4 閉 会